

令和 8 年度 第 2 回学校運営協議会 報告

1 日 時 令和 8 年 7 月 30 日（木）午前 9 時 30 分から 11 時 30 分まで

2 会 場 本校 会議室

3 出席者等

(1) 学校運営協議会委員（※欠席者）

【委員①】元特別支援学校長（地域コーディネーター）

【委員②】中村町自治会長

【委員③】本校 P T A 会長

※【委員④】あおい小鹿

【委員⑤】ありんこの里副管理者

【委員⑥】大里生涯学習センター長

【委員⑦】小糸製作所人事部企画課

(2) 校内教職員

校長、副校長、事務長、各学部主事、地域支援部長、教務・情報課長、生徒指導・防災課長、健康体育課長（欠席）研修課長、自立活動課長、キャリア教育推進委員長（欠席）共生社会推進委員長

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 自己紹介
- (4) 1 学期の取組報告、ぐんぐんシート
- (5) 協議等
- (6) 閉会

5 協議等内容

(1) 校長挨拶

- ・連日の猛暑や急な雷雨、熊本での地震を受け、改めて学校における防災意識の向上について予測困難な災害への対応として、静岡県中部地域局危機管理課の協力のもと実施した夏季防災研修に触れ、地域との防災体制の重要性を伝えた。

(2) 協議等

ア 1 学期の取組報告、ぐんぐんシート

- ・学部主事、課長、委員長から 1 学期の学校経営の成果と課題について、報告をした。（資料参照）
- ・校長から学校経営計画の 6 項目についての子どもの自己評価について報告した。説明する際に、1 学期の子どもたちの具体的な姿や取り組みについて写真を提示しながら紹介した。

イ 委員からの感想等

【防災関連】

- ・避難器具の確認、発電機の定期稼働、猛暑時の避難判断の重要性等、質問や意見をいただいた。
- ・本校での防災訓練における現在の状況や課題等について伝えた。

【交流及び共同学習】

- ・交流の生徒の感想や様子から発達段階に合わせた交流の課題や問題点等が挙げられた。
- ・交流及び共同学習の位置づけや学部ごとの交流方法や実施回数等についても共有した。

【補聴機器の管理について】

- ・家庭や学校での人工内耳や補聴器の適切な扱い方や管理についての指導について確認した。

【自己肯定感を高める取組について】

- ・ホームページの「ほけんだより」に掲載されている「心がざわざわしたときの落ち着かせ方」のような取り組みは良いと感じた。地域として子どもたちの成長を支える場にした。
- ・ストレングスカードを活用した子どもたちの自己肯定感を高める取組は自己評価力だけでなく、学校への愛着や学習意欲につながる。

ウ テーマ『子どもたちが将来社会の一員として生き生きと生活するために学校教育（幼稚園、小学部、中学部）でどのような学習活動があるとよいか』について（用紙に記入し、意見交換）

- ・副校長から第1回の運営協議会の「応援メッセージ」の集計報告結果について伝えた。（資料参照）

【コミュニケーションについて】

- ・自分の発音に自信をもてることで、相手に伝える意欲が育つ。学校と家庭で発音指導を行っていくことが大事である。
- ・読書等を通じた語彙力の向上が自分の気持ちを伝える力につながる。
- ・音声文字変換アプリ等のICTツールを社会に出た際の補助手段として活用するスキルを習得するとよい。

【社会性・交流について】

- ・地域のお祭りや行事、ボランティア等への体験をとおして、様々な年齢の人とかかわる力を育てたい。
- ・幼稚園や小学部低学年の子どもたちは通常の園や学校の子どもたちとの語彙の差が少ないと思うので、積極的に交流し、人とかかわる経験を積む。
- ・人とかかわりの中で対話するときのマナーを身に付けたり、相手の気持ちを考えたりできるようにしたい。

（３） 次回の学校運営協議会について

第3回学校運営協議会は11月19日（木）を予定している。